

審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係につ いては概要を記載)	説明者
I 審議事項					
1. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第3四半期】追加分					
提案1	学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取組」の開催について	第二部長	資料1	主催：日本学術会議 日時：令和2年11月28日(土)午後 場所：オンライン開催 ※第二部承認	第二部長

1. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第3四半期】追加分

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として 年間 10 回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計 3 件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに 2 件まで

○今回提案【令和2年度第3四半期】 全 1 件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案 1	新型コロナウイルス感染症 コントロールに向けての学 術の取組	11 月 28 日 (土) 午後	オンライ ン開催	要	要

(参考)

■今回提案を含めた合計数

- 1. 学術フォーラム（平日 6 件/土日 4 件） 全 10 件
- （内訳）※現在の 10 件中、10 件は経費又は人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	2	1	1	0
	(平日)	2	1	2	1
合計		4	2	3	1

日本学術会議主催フォーラム
「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取組」の
開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和2年11月28日（土）午後

3. 場 所：オンライン開催

4. 分科会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

日本学術会議では、新型コロナウイルス感染症の流行に対して、24期において2本の提言（提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」及び提言「感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進」）を行った。両提言は、日本学術会議として中長期的な視点から新型コロナウイルス感染症のような大規模感染症の予防・制圧のための提言を行ったものである。

現在、冬季に向かって新型コロナウイルス感染症の再流行の兆しが見える中、両提言を踏まえて、現在の情勢を検討するとともに、新型コロナウイルス感染症についての学術の成果を発信する。

あわせて、（一般社団法人）日本医学会連合との協力のもとでの学術フォーラムとし、医学関係の学会の連合体である同連合との連携の嚆矢とする。

国内には新型コロナウイルス感染症の再流行に対する不安感が広まっており、本学術フォーラムの目的は、学術の取組と成果を広く発信し、日本医学会連合との連携により、学術界全体として新型コロナウイルス感染症に取り組んでいる姿を明らかにすることで、社会に広がる不安感とそれにとまなく様々な社会問題の解決に資することである。

6. 次 第：（予定、交渉中のものも含む。）

司会：岸玲子（日本医学会連合副会長）、秋葉澄伯（日本学術会議大規模感染症予防制分科会委員長）

1）日本学術会議と日本医学会連合からの開会の辞

梶田隆章（日本学術会議会長）

門田守人（日本医学会連合会長）

2）日本学術会議での提言作成の経緯：秋葉澄伯（日本学術会議大規模感染症予防制分科会委員長）

2－1）提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」を踏まえ

- た現状の分析と提案：郡山千早（日本学術会議連携会員）
- 2－2）提言「感染症対策と社会変革に向けた ICT 基盤強化とデジタル変革の推進」を踏まえた現状の分析と提案：高倉弘喜（国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授・同サイバーセキュリティ研究開発センター長）
- 3）日本医学会連合とその加盟学会の活動報告と提案
- 3－1）健康危機管理と疾病予防を目指した政策提言・支援組織の創設の必要性：磯博康（日本学術会議会員、日本医学会連合 Japan CDC 創設に関する委員会（第二次）委員長）
- 3－2）日本感染症学会の取り組み：舘田一博（日本感染症学会理事長、日本学術会議 24 期特任連携会員）
- 4）フォーラム
- 4－1）臨床の現場からの現状の分析と提案：三嶋廣繁（日本学術会議連携会員）
- 4－2）コロナ禍と非感染症医療提供体制：名越澄子（日本学術会議会員、日本医学会連合理事）
- 4－3）新型コロナウイルス感染症によるメンタルヘルスへの影響：神尾陽子（日本学術会議連携会員）
- 4－4）医療の IT 化の推進のために提案：喜連川優（日本学術会議連携会員）
- 4－5）新型コロナワクチン開発の現状と展望：朝長啓造（京都大学ウイルス再生医科学研究所教授）
- 5）質疑応答

（下線の講演者は、日本学術会議関係者）